



上田市議会議員 佐藤のりゆき

佐藤 論 征

後援会報 3月定例会報告

2015年3月定例会号

佐藤のりゆき後援会
発行責任者 森山 和
上田市真田町長 3576-1
TEL 0268-72-5666
FAX 0268-72-2622

平成 27 年度上田市一般会計当初予算額 715 億 9485 万円

上田市議会3月定例会が2月23日から3月18日まで開会され、27年度一般会計当初予算案など51議案が可決
27年度一般会計当初予算については、今年度当初予算比6%増の715億9485万円が可決

小中学校耐震化

市内の小中学校については、平成28年度で全て完了するよう耐震化を進めている。体育館などの吊り天井落下防止に5億円。対象は東小、西小、塩尻小、浦里小、塩田西小、長小。川西小改築6億3,885万円、本原小改築9億1,150万円、二中改築2億8,460万円、三中大規模改造など8億685万円と改築に8億8,948万円、四中改築13億8,213万円予算化。

安心・安全

- 災害ハザードマップ作成・全戸配布・・・1,750万円
- 消防団安全装備品購入事業・・・500万円
消防団員安全確保のため救助用反長靴500足、耐切創性手袋500双、それぞれ装備充実強化する。
- 除雪機購入補助事業・・・2,021万円
自治会が購入する小型除雪機の購入に要する経費の8/10以内（上限60万円）を補助。当初予算で既に要望がだされている43台について予算化。
- 防犯灯交換補助金・・・6,232万円
既設防犯灯を環境保全型防犯灯（LED防犯灯）への交換に対する補助金。平成27年度が5カ年事業の最終年度。

文化創造都市

- 西部公民館施設整備事業・・・1億6,794万円
旧上田警察署跡地に西部公民館を建設するため、土地購入費、基本実施設計委託費を予算化。

医療・健康・福祉

- 若者健診推進事業・・・100万円
- 健康づくりチャレンジポイント制度事業・・・275万円
健康づくり事業等の参加をポイント化し公共施設の無料利用、又は学校・保育園へポイント相当額のスポーツ用品の配布を行う。
- 健幸クラウドシステムを活用した健康推進事業・・・690万円
健診データを活用し、市民の健康状態を把握し、効果的な啓発事業を実施する。

教育環境

- いじめ問題対策連絡協議会・調査対策委員会設置・・・17万円
- 特別支援学級タブレット型パソコン整備事業・・・280万円

自然環境

- 新エネルギー活用施設設置費補助・・・450万円
（住宅用太陽光発電システム設置費補助金）

真田丸関連

- 真田丸関連としては、総額で**9億1,165万円**が予算化された。
- 大河ドラマ館整備
旧市民会館を改修し、観光客受け入れのための大河ドラマ館を整備。企画・整備・運営に関わる経費2億5,000万円を含む、プロモーション推進事業全体で3億4,321万円を予算化。
 - 真田地域整備
長谷寺への道路整備などの大型バス待避所整備、史跡等への案内標識設置工事等4,050万円。真田地域を訪れる観光客を受け入れるための駐車場整備、周遊観光バス運行事業費等8,706万円を予算化。
 - その他真田丸関連
その他の予算としては、上田城跡公園北駐車場・上田城跡南駐車場等整備、まちなか循環バス関連、観光会館ガイド運営、櫓門前観光ガイド運営、真田フォーラム開催、特別企画展、小学生対象の歴史演劇鑑賞、真田氏歴史読本製本などが予算化された。



地域経済活性化

- ワイン用ぶどう苗木・ぶどう棚購入補助・・・290万円
- 6次産業化推進事業・・・70万円
農業の6次産業化を推進するため、地域資源と展開の可能性の調査分析を実施し、推進化策を早期に立案するための予算。
- 商店リニューアル事業補助金・・・250万円
中心市街地の商店街全体に対するイメージアップを図るため、商店街の店舗外観の魅力向上の取り組みに対し支援を行う。

循環型社会

- 生ごみ堆肥化処理モデル事業・・・613万円
各家庭で乾燥させた生ごみを改修しJA堆肥化センターで堆肥化。協力世帯JA直売所で利用できるポイントを付与する。
- ごみ減量化機器等購入補助金・・・769万円
補助率、補助上限額を見直し、制度の拡充を図る。
 - ・生ごみ堆肥化容器：補助率4/5以内、補助上限額5,000円
 - ・生ごみ処理機：補助率4/5以内、補助上限額50,000円

佐藤のりゆきホームページを平成27年4月15日より開設

<http://www.noriyuki-sato.com>

上田市議会議員 佐藤のりゆき 検索

住民自治

- 地域振興対策事業・・・1,350万円
地域内文献の確立のため、地域課題の掘り起しや解決に向け、調査研究などに機敏に対応するための経費。
※地域経営会議交付金
地域経営者会議（地域協議会委員・自治会・各種団体代表者等で構成）に年額50万円（各地域と人口1万人を超えるごとに10万円を上限に加算可）を基準として交付する。将来的な交付金制度を想定し、27年度は試行的にモデル地区の神科・豊殿地域、川西地域、丸子地域において実施する。
- 自治基本条例の見直し検証・・・52万円
平成23年4月1日に制定した上田市自治基本条例において、5年間を越えない期間ごとに条例の見直しを行うこととしており、仮称・上田市自治基本条例評価委員会により実効性を検証。

子ども・子育て支援

- 保育施策の充実・・・4,062万円
子ども子育て支援新制度施行に伴い、保育標準時間（11時間）に対応するため、臨時保育士を増員。
保育料の軽減
 - ・第2子軽減（10%）の新設
 - ・第3子以降軽減（80%）の対象者の拡大
 - ・第3子以降軽減（100%）の新設（所得要件、第2子の在園要件あり）

交流・定住

- 定住人口増加策推進事業・・・178万円
定住ア人口増加策推進のための事業を実施
 - ・情報発信媒体の整備（PR映像・小冊子・リーフレット）
 - ・移住相談会への参加
 - ・空き家バンクの実施
- 2019ラグビーワールドカップキャンプ地誘致事業・325万円
2019年に開催されるラグビーワールドカップ等のキャンプ地として、菅平高原に誘致するための経費の計上。
 - ・ラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会負担金
 - ・広報活動費など
 - ・日本スポーツツーリズム推進機構加入負担金
- 地域おこし協力隊事業・・・1,666万円
都市住民を地域に受け入れ、市で地域おこし協力隊に委嘱して地域協力活動に従事してもらい、あわせてその定住・定着を図りながら、地域の活性化に貢献してもらう。27年度は豊殿地域、川西地域、武石地域、真田地域において受入を計画。
- 子ども・子育て支援新制度における利用者支援事業・・・372万円
教育・保育施設及び地域子育て支援事業等を円滑に利用できるように「情報集約・提供」「相談」「利用支援・援助」を行う総合的窓口を設置する。中央子育て支援センター内に相談員1名配置。

3 月定例議会一般質問

3月定例会の一般質問において、学校給食費についてと生ごみ減量化の取り組みについて質問をいたしました

学校給食について

平成27年度より、小学校で月間222円、中学校で月間293円の値上げとなります。昨年の消費税増税と、給食費のなかで大きなウエイトを占める牛乳価格が値上がりしたことによる値上げ措置です。これに関連し質問をいたしました。

問 各学校への通達が年度末ぎりぎりとなり、学校、保護者の混乱をまねいたが、今後の食材価格高騰、更なる消費税増税があるなか、今後の価格改定について早期の通達もしくは、価格動向について情報提供できないか。
答 適切な時期の検討を行うと共に、学校関係者、保護者へ今後、情報提供を実施する。

問 昨年、消費税増税されたにもかかわらず、給食費を値上げしなかったこれまでの1年間、給食の質は確保されていたか。また、どのような手段で確保していたのか。
答 栄養士が大変苦勞をし、栄養摂取基準を満たしていた。米価などについては下落もあり対応できた。ただし、価格吸収努力も限界に達し今回の値上げ措置となった。

問 子どもたちの成長に必要な栄養素の確保、食育の観点からも、昨年の消費税増税時に給食費の値上げを行うべきでなかったか。
答 消費税増税が当初2年連続で2回予定されていたことから、2年連続の改定となり学校、保護者との合意形成が得られにくいとの判断から昨年の値上げを見送った。

問 一部市町村で実施されている給食無料化の取り組みはできないか。
答 学校給食法で保護者負担とされている光熱水費について上田市では市が負担し保護者負担軽減を図っている。食費は一般定期に個人の負担と帰すべきものであり現段階では無料化は適当ではないと考える。

生ごみ減量化の取り組みについて

資源循環型施設建設を建設予定地の皆さんにお願いする前に、上田市全体で生ごみの減量化に取り組み、上田市全体の問題として取り組む必要があり、ごみの中で大きなウエイトを占める生ごみ減量化の取り組みの提案をいたしました。

問 東京都町田市などで既に取り組んでいる、50世帯ほどで共用できる生ごみを堆肥化する大型生ごみ処理機を市が貸し出す制度導入を提案するが、市の見解はどうか。
答 制度整備について積極的に検討していく。制度整備にあたっては検証が必要となりモデル事業として実施いきたい。



大型生ごみ処理機

問 昨年9月から今年2月まで実施された通風乾燥型生ごみ処理機のモニター調査の結果はどうであったか。また、今後の普及についての見解は。
答 生ごみを4割程度に減らす効果があった。問題点としては臭気、運転音が気になるといったような意見があった。一方、操作が簡単で減量効果もある、またはモニター調査に参加し、自宅から発生するごみの量がわかるようになり、買い物、料理の段階からごみ処理のことを意識するようになった、また可燃ごみの量が減った、回数は変わりなくても、可燃ごみの袋が今までより小さなもので済むようになったなどの感想もいただいた。今後も通風乾燥型生ごみ処理機を初めとする家庭用の生ごみ処理機の普及啓発を広く行うとともに、地域で自治会等が大型生ごみ処理機を使って生ごみを堆肥化し、再利用するといった取り組みへの支援につきましても研究しまして、多くの市民の皆様にご協力をいただけるよう生ごみの減量化、再資源化を推進していく。

佐藤のりゆきホームページを平成27年4月15日より開設

<http://www.noriyuki-sato.com>

上田市議会議員 佐藤のりゆき 検索